

平成24年度社会貢献プロジェクト

小学生低学年児童とその保護者向けの「命」をテーマとした教材製作とその普及

代表者：大河内信弘（医学医療系）

分担者：楠本 敏薄（病院総務部総務課） 平井 理心（病院総務部医事課）

千原 尉智路（医学群医学類）

背景と目的

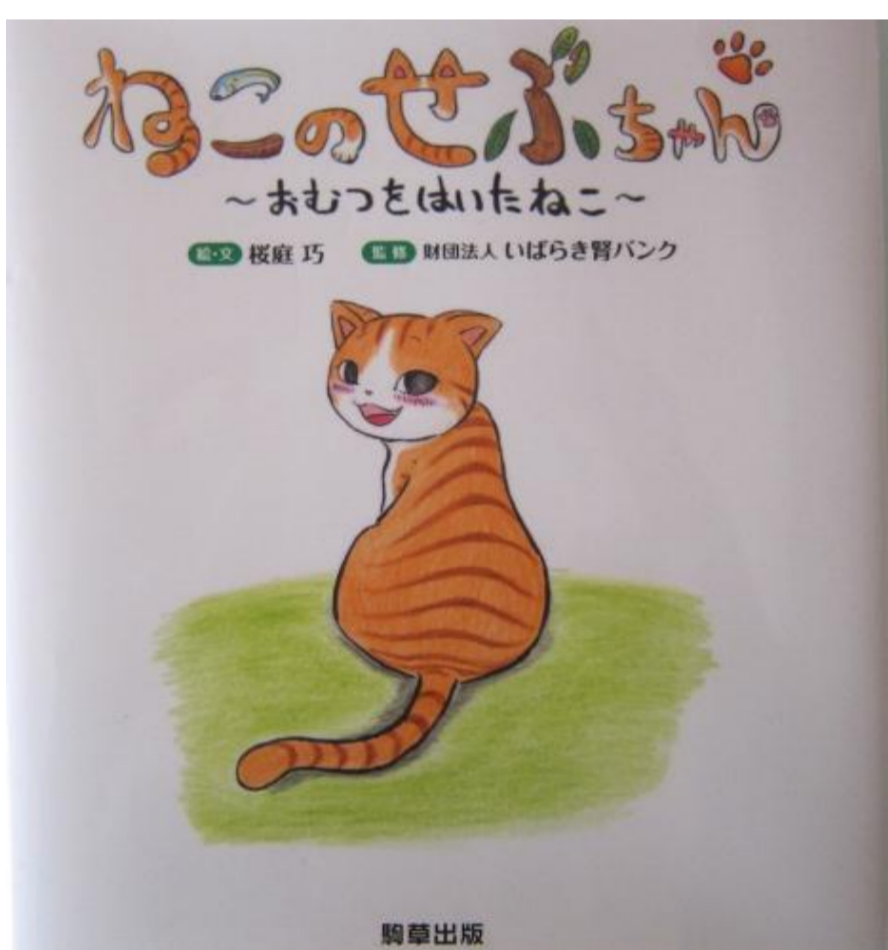
医療が進歩する中、どんな病気やけがでも現在の医療で助かると、誤解している国民が少なくない。「病院に行けば治してくれる」といった、受身的な考えが蔓延し、自ら生きていこうとする人本来の力が損なわれているように感じる。病気や死はだれにでも訪れるものであり、生きていく限り避けられないものである。それを意識することは、生を意識することにつながっていく。病気や死について、生について、幼少期から考え、仲間とともに話し合える環境という「場」の提供が必要ではないだろうか。このことから、「命」をテーマとした絵本を制作した。子どもが手に取りやすい絵本を通して、親や教師、友達とともに、生について話し合える教材となっている。

実施内容及び成果

●絵本の製作

テーマ： 死が身近にあること

どんな自分でも生きていくことに意味があること。



Point

この教材は、絵本ではあるが、絵と文章を分けて構成するというユニークな作りである。絵のみをみることで、読み手それぞれのストーリーを創り出せ、それぞれの「命」に対する考えをより深める効果が期待できる。

～内 容～

捨てられた子ねこが女の人に拾われ、女の人と犬とともに成長していく。大好きな犬との別れと約束。ケガをした結果、動けなくなってしまう自分。それでも、人とのつながりの中で、どんな姿、どんな自分でもいと認められ、自分自身のありのままの姿を受け入れる。自分の存在を肯定していく猫の成長とその幸せを描いている。（Amazonから引用）

地域社会等との連携

制作にあたり、「財団法人いばらき腎バンク」と協働した。

<財団法人いばらき腎バンク>

平成元年（1986）年、腎不全の患者さんからの寄付をきっかけに、腎臓提供希望者のための登録制度を実施する機関として設立。現在、移植推進事業、臓器提供者家族支援事業のほか、茨城県内の学校などに講師を派遣して「いのちの学習会」を開催。その学習会の教材として、筑波大学の学生とともにDVD「話そう大切な人と」を制作。精力的な活動を続けている。



今後の展望

茨城県内の小学校や図書館への配付や、読み聞かせ会の実施など、この絵本を普及活動に努める。制作した絵本を学校や家庭で読み合うことで、それぞれが「命」について考える機会となる。また、絵本の内容を友達、仲間、親子、教師と児童とともに話し合うことで「命」について考え、話し合える環境が地域社会に構築されていくことを期待する。